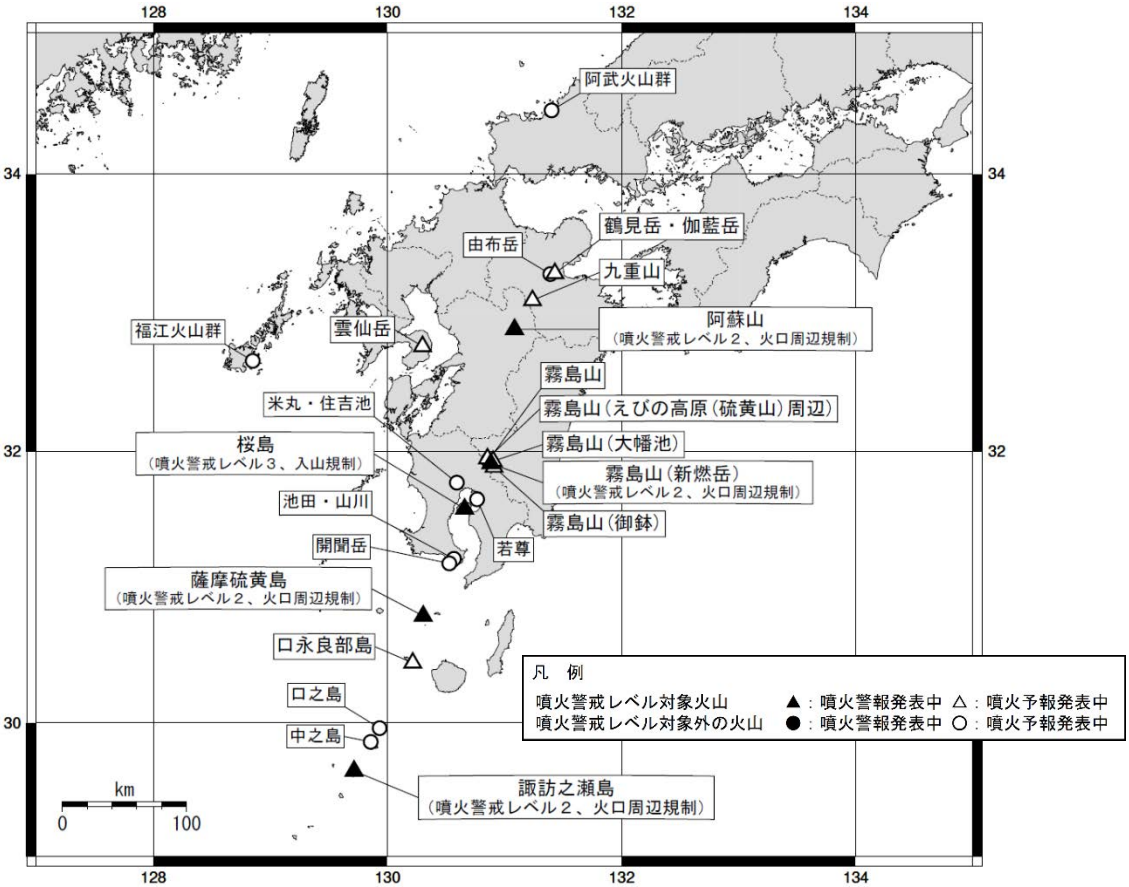
○ 九州地方の火山活動

管内月間火山概況（令和８年 10 月）

福　岡　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（令和８年 10 月 31 日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル３（入山規制）	桜島
	レベル２（火口周辺規制）	阿蘇山、霧島山（新燃岳）、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報	レベル１（活火山であることに留意）	鶴見岳・伽藍岳、九重山、雲仙岳、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、霧島山（大幡池）、霧島山（御鉢）、口永良部島
	活火山であることに留意	阿武（あぶ）火山群、由布岳、福江火山群、霧島山、米丸（よねまる）・住吉池、若尊（わかみこ）、池田・山川、開聞（かいもん）岳、口之島、中之島



噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、九州地方整備局、国土地理院、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、大分県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、屋久島町、三島村、十島村、阿蘇火山博物館及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

各火山の活動状況及び予報警報事項（10 月１日～31 日）

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

鶴見岳（つるみだけ）・伽藍岳（がらんだけ） [噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態で経過しましたが、長期的にはＢ型地震[1)]が時々発生しています。その他の火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

鶴見岳・伽藍岳の想定火口域内では、噴気、火山ガス等の噴出がみられますので、注意してください。

九重山（くじゅうさん） [噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]

火山性地震は少ない状態ですが、中長期的には硫黄山付近が震源と推定されるＢ型地震[1)]が時々発生しています。噴気地帯の状況には特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。地熱域では、長期的には温度の低下や縮小傾向がみられていますが、硫黄山付近の噴気地帯地下の温度上昇を示す全磁力の変化は継続しています。今後の火山活動に留意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

阿蘇山（あそさん） [火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）]

火山性微動の振幅は概ね小さな状態で推移しましたが、時々やや大きな状態となりました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は増減が認められ、時々多い状態となりました。GNSS 連続観測では、2026 年５月頃から草千里を挟む基線及び広域の基線において、草千里付近の深部にあると考えられるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められていましたが、８月頃から停滞しています。

火山性微動の振幅に変動が認められ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は多い状態になるなど、火山活動は引き続き高まった状態であることから、中岳第一火口から概ね１km の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

雲仙岳（うんぜんだけ） [噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

霧島山（きりしまやま）（えびの高原（こうげん）（硫黄山（いおうやま））周辺（しゅうへん）） [噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]

硫黄山では、活発な噴気活動が続いています。硫黄山付近の浅いところを震源とする火山性地震は少ない状態で経過しました。

硫黄山では、現時点では噴火の兆候は認められませんが、活火山であることから、現在活発な噴気活動がみられている硫黄山火口内、及び硫黄山の西側 500ｍの噴気地帯から概ね 100ｍの範囲では、熱水・熱泥等が飛散する可能性がありますので注意してください。また、火山ガスにも注意が必要です。

地元自治体等が行う立ち入り規制に従うとともに、火口周辺や噴気孔の近くにはとどまらないでください。

霧島山（きりしまやま）（大幡池（おおはたいけ）） [噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

活火山であることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、留意してください。

霧島山（新燃岳）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

新燃岳では、2025 年９月８日以降噴火は観測されていません。

火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過しています。

GNSS 連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で、霧島山深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められていましたが、2025 年 12 月中旬頃からは停滞しています。

一方、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が１日あたり数百トンの状態が継続していることから、火山活動は高まった状態で経過しています。弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね２km まで、火砕流が概ね１km まで達する噴火が発生する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね２km の範囲では警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

霧島山（御鉢）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。

活火山であることから、火口内でごく少量の火山灰等を噴出する規模の小さな現象が突発的に発生する可能性がありますので注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

桜島［火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）］

南岳山頂火口では、噴火[2)]が 94 回発生し、このうち爆発[3)]は 11 回でした。噴煙は最高で火口縁上 3,000ｍまで上がりました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は最大で南岳山頂火口から約 900ｍ（７合目）まで達しました。

昭和火口では、ごく小規模なものも含め噴火は発生しませんでした。

広域の GNSS 連続観測によると、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部にマグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられます。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態であることから、今後も噴火活動が継続すると考えられます。

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

薩摩硫黄島［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

硫黄岳火口では、28 日 13 時 07 分と 14 時 15 分に噴火が発生し、噴煙は最高で火口縁上 900ｍまで上がりました。大きな噴石の飛散や空振は観測されませんでした。噴火が発生したのは、2026 年５月 17 日以来です。なお、噴火の前後で地震活動や地殻変動等に特段の変化はみられていません。

火山性地震や火山性微動の発生状況に特段の変化はありません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は１日あたり 1,000 トン前後の状態が長期的に継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。長期的には噴煙活動や熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

硫黄岳火口の中心から概ね 0.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスにも注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

口永良部島（くちのえらぶじま）［噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）］

山体の浅いところを震源とする火山性地震がやや多い状態で経過しています。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない状態で、GNSS 連続観測では、2023 年 11 月以降、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、活火山であることから、新岳及び古岳の火口内では、火山灰等が噴出する可能性があります。また、新岳西側割れ目等の地熱域では、高温の噴気や火山ガス等に注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

中之島（なかのしま）［噴火予報（活火山であることに留意）］

火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

諏訪之瀬島（すわのせじま）［火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）］

御岳(おたけ)火口では、噴火が時々発生しました。

噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上 700ｍまで上がりました。弾道を描いて飛散する大きな噴石は、観測されませんでした。

GNSS 連続観測では、2024 年 10 月以降、島の西側におけるマグマの蓄積量の増加を示唆する変動が認められていましたが、2025 年 11 月頃から停滞しています。火山性地震は、少ない状態で経過しています。

諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しています。御岳火口では夜間に火映を観測し、火口内の熱活動は引き続き高まった状態であると考えられ、火口周辺に大きな噴石が飛散する噴火が発生する可能性があります。

御岳火口中心から概ね 1.5㎞の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、予報事項に変更はありません。

1）一般的に、火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長いものをＢ型地震と呼んでいます。火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。
2）桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが火口縁上 1,000ｍ以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火として噴火回数に含めていません。
3）桜島では、火道内の爆発による地震を伴い、爆発音、体に感じる空気の振動、噴石の火口外への飛散、または、気象台や島内の観測点で一定基準以上の空気の振動のいずれかを観測した場合に爆発としています。